

プリエールねっと通信



2026.8 月号

目次

報告.....1・2

プリエールねっと総会報告

市民企画講座要綱等改訂

報告.....3・4

お邪魔してきました 市民企画講座

もっと語ろう不登校

～子供が語る 親が語る～

ママたちのハッピーおしゃべりフォーラム

インフォメーション.....3・4

次回市民企画講座

《通信発行者》

プリエールねっと広報担当

芦原 康江

角 智子

□プリエールねっと総会報告

市民企画講座実施要綱等を改訂

プリエールねっとの令和 8 年度総会を 4 月 18 日(土)に開催しました。

前回予告しましたように、今回は、市民企画講座について改訂が諮られ、以下のとおりとなりました。より皆さんが企画しやすく、参加しやすい講座になるように改訂しましたので、ぜひ市民企画講座をご活用ください。

総会では、下記の表のとおり役員の改選がありました。また、外部委員会委員として、松江市原子力発電所環境安全対策協議会委員に山崎代表、高麗委員を選出しました。

市民企画講座の R8 年度改訂について

1 改訂の考え方

(ア)年 3 回、当該年度に開催希望の企画概要を募集し、採択後に実施計画書を提出する流れに変更し、企画実現の支援を行う。

(イ)講座開催が松江市男女共同参画計画のいずれの目標に資するものか自らチェックし、主催者の思いを明確にする。

2 改訂のポイント

(ア)すべての講座を市報に掲載する。

(イ)助成金の使途を広げ、使いやすくする。

(ウ)こんな講座がしたいを形にできるよう支援を行う。

(エ)応募期間を区切り、限られた予算の有効活用を目指す。

(オ)早期に全体事業の計画・調整を行い、事業を展開する。

2026 年度役員

代 表 山崎 泰子

代表委員 山崎泰子、光田浩己、成瀬
明子、芦原康江

運営委員

〈学習・研修部〉光田浩己、高橋真澄、
松崎朋子、

〈交流部〉成瀬明子、吉廣則子、吉田聖
愛、山中信恵、

〈広報部〉芦原康江、角智子、佐々木秀
明、吉廣則子(兼)

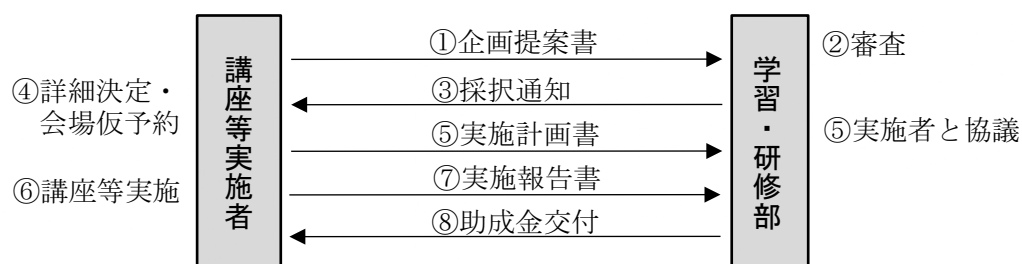
〈総務部〉山崎泰子、小沢佳子、高麗綾
子、錦織伸行

監 事 松林三津子、江角聖子

3 変更箇所

項目	内 容	募集要項
㊦講座実施期間	7/1～3/15	5.
㊧企画募集期間	【一次】 4/21～ 5/11 講座等の開催時期： 7/ 1～3/15 【二次】 6/ 1～ 6/30 講座等の開催時期： 9/15～3/15 【三次】 9/10～10/ 9 講座等の開催時期：12/15～3/15 * 広く市民の参加を募るため、市報へ掲載することを前提とする。	2.
㊨募集する講座の内容	「第3次松江市男女共同参画計画に基づくテーマ」と明記。 * 男女共同参画計画に基づくいずれの講座であるか自ら確認していただく。	4.
㊩助成対象経費の拡大	【現行】 講師謝金 【追加】 講座運営にかかる消耗品代 講座のチラシ等の印刷代・郵送料 講座開催に必要な備品等（市民活動センター指定管理者所有）の利用料 * 助成金の使途を広げ、使いやすくする。	6.(1)
㊪託児申込先	男女共同参画センターから講座等実施者へ変更。 * 講座と託児の申込を一括受け、参加者の利便性向上を図る。	6.(6)
㊫応募方法	募集期間内に「プリエール市民企画講座企画提案書」を提出、採択後に「プリエール市民企画講座実施計画書」を提出。 * 企画から実施計画立案まで学習・研修部が支援する。	7.

4 市民企画講座の流れ



5 要綱および募集要領、各種様式等

- ①実施要綱
- ②チラシ及び募集要項
- ③企画提案書及び第3次松江市男女共同参画計画・市民企画講座企画例
- ④採択決定通知書・【別紙】開催にあたっての注意事項
- ⑤実施計画書
- ⑥実施報告書
- ⑦辞退届

※市民企画講座についての詳細は、プリエールねっとのHPを参照

右のQRコードから





もっと語ろう不登校

—子どもが語る 親が語る—



7月12日。松江不登校を考える会主催で「もっと語ろう不登校 子どもが語る、親が語る」が開催され、お邪魔してきました。

パネラーには、不登校を経験してきた人、そして今まさに子どもが学校に行かないお母さん、かつて子どもが不登校だったお父さんの3人が登壇し、それぞれに経験を語られました。



不登校を経験してきた若い女性は、家族が学校を休むことを許してくれなかった苦痛を語り、「やり直すことができるなら、絶対に学校に行かない」とまで語ってくれたことがとても印象的でした。子どもを追いつめたお母さんもまた、青少年支援センターから「学校に行けず、家も居場所がなかったら、子どもはどうしたらいい

の？」と言われ、やっと生きることが大事と気が付けたようでした。

そして、かつて子どもが不登校だったお父さんのお話は、同時代に我が子も不登校だっただけに、思わず当時のことを思い出しました。この方が語るには、当時は「母親の子育てが問題だと言われ、父親に威厳がないから子どもが学校に行かないのだと言われた」と話されました。確かに、当時は精神科などの専門家が、父親に対して、「たまには、母親のほっぺたをひっぱたくぐらいのことをしたほうが良い」といったことを、平然と話していました。今でもそうなのか？と、俄然、気になりました。会場には男性参加者がたくさんいらっしゃったので、ちょっと聞いてみました。



すると、「父親も子供のことは心配するし、積極的に関わります」と話されました。パネラーの方からも「父親は理解者だ」との話を聞かせてもらいました。私たちがかつて経験した母親に子育ての責任を押し付け、父親の威厳を死守しようとするような考えは、かなり解消されたのだなあ！と少しホッとしました。



……………インフォメーション……………

<市民企画講座>

10月31日(土)14:00～15:30

市民活動センター201・202

松江友の会 主催

家事家計講習会～あなたの暮らしが見えますか？

part27～

家計簿を通して、消費生活の適量、使い捨てではない暮らし方、地球温暖化防止など、次世代に残していかなければならない暮らしを考える企画です。

ママたちのハッピーおしゃべり フォーラム

7月14日は、新日本婦人の会松江支部 親子リズムサークルの主催で「ママたちのハッピーおしゃべりフォーラム」が開かれました。

会場は市民活動センターの和室で行われ、赤ちゃんを連れた女性たち5人の参加でしたが、少ない人数だからこそ、遠慮なく言いたいことを話すことができていたと感じました。



主催者からは、参加された若いお母さんたちに、「お母さんになって、子ども中心の生活になり、自分のことができていないし、呼ばれ方も〇〇ちゃんのお母さんです。自分のことが話せる場が必要です。」と、この企画の趣旨を説明されました。

それぞれに自己紹介とともに、出産や子育て、家族との関係など、それぞれの思いを話されていました。出産体験はそれぞれに違って、不妊治療や流産などを経験することは、体への負担も大きく、精神的にきつかったことは想像に難くありません(ここ、女性だからこそ容易に想像できるのですが、男性にはなかなかわからないことかもしれません)。それでも、生まれてくれればかわいく、苦労も報われるのですよね。



また、「男は子どもが生まれても生活を見直さない」との声も聞きました。「女だから家のことをするのは当たり前」にとらわれないで、夫に家事負担を求めても、(やっているのを見ると)イライラするのだとか。男性の家事負担が当たり前になっている現代でも、負担割合はまだ女性に偏っている実態を垣間見た気がしました。



一昔前のことになりますが、私が出産したときも確かに夫はあまり生活を変えることはありませんでした。一人、私は狭い透明な瓶の中に閉じ込められたような感覚の中でいたことを思い出します。その夫は、今では買い物と夕食づくりを毎日こなすようになっています。

どうぞ、若い皆さん。子育てに相当な時間を取られる中、夫が自分事として家事や子育てに責任をもってやってくれるまでには大変な時間と労力が必要だと思います。そこは機知とユーモアで乗り切ってください。

アイランドの女性たちが、そして私たちも愛をこめてこう言うでしょう。

休日をとみましょう！

インフォメーション

<市民企画講座>

10月4日(日)14:00~16:00

市民活動センター201・202

**「ベアテの贈り物」を届ける会 主催
-ジェンダーに基づく暴力をなくすために-**

戦時下における女性への暴力が絶えない中、清末愛砂 室蘭工業大学教授(ジェンダーに基づく暴力を研究)のお話を録画視聴し、足元から暴力をなくすために考える企画です。